大正九年七月一日發行　大正九年六月二十六日印刷納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十七巻　七月號

目次

第十七卷第七號

女子青年界目次

大正九年七月號

◎九月號には**河井總幹事の興味多き通信**を掲載致します。

婦人之友社の三大雜誌

「婦人之友」

毎月一回一日發行

一冊金四十錢　郵税一錢五厘

主幹　羽仁もと子

「まなびの友」

毎月一回一日發行

一冊金廿五錢　郵税一錢

主幹　羽仁もと子

「子供之友」

毎月一回一日發行

一冊金廿五錢　郵税五厘

主幹　羽仁もと子

東京雜司ケ谷　**婦人之友社**　電話番町三六九八　振替東京一一六〇〇

◆其實驗說明書の發行十三版を重ね◆

本器は會主前島震太郎の創製にして江湖に提供して以來七箇年

酸素療器



オキシヘーラー

▽邦文 支那文 治病實驗例附說明書贈呈△

▼オキシヘーラーの効力顯著なる事は使用僅か五分間にして三乃至五m.mの血壓を亢め一時間を繼續せば實に十乃至三十m.mの活力を增進す試に血壓計、脈波計を以て驗せば其調節の狀を明にし各自は脈搏呼吸、體溫の整調に依て自覺せらる

▼靈妙なる磁氣應用の本器は斯して血液中の酸素吸引力を增大し健康の元素を補ふが故に難治の疾病を根治するに空前の偉力を有す論より證據使用者は忽ち脈搏强實となり全身の溫暖、呼吸の深長を感じ次で熟睡、解熱、鎭痛、食慾の亢進、兩便の快通等生理的本能を回復するの神速なるは實に天下の奇蹟なり

特色｛使用法簡易効力永遠不滅にして電池の如く消耗するものにあらざれば器械購入以外永遠に何等費用を要せず

■正價金參拾五圓■

送料 內地 金參拾六錢 支・朝・臺・樺金六拾五錢

愛用者實に數萬を算して信用愈〻確立決して他の模倣を許さず

東京市牛込區簞笥町三十一番地

◇オキシヘーラー奬勵會◇

電話番町長三〇七・四六八九・振替東京二七七一二

FURS & MILLINERY

D. KOMEYA,

Prop. C. YAMAOKA

WHOLESALE and RETAIL

A Largest collection of Furs, Coats, Stoles, Muffs, Slippers, Brocade Linings & Feathers. Water Color Pictures.

FUR DEPT.
No. 3 & 4, Benten-dori, Itchome, Yokohama

PICTURE DEPT.
No. 14, Bentendori, Itchome, Yokohama

SUMMER BRANCH
Karuizawa, Shinshu.

貴婦人令孃用

毛皮コート　襟卷　マフ　スリッパー　羽毛

絹裏地　水彩畫類　其他毛皮製品種々

何れも最新流行形いろ〳〵取揃てありますから多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品であります、御注文も御好みに依り入念調製いたします。



横濱　辨天通一丁目三、四番地
コメヤ號　山岡商店　電話長三七〇

東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號　山岡商店　電話銀座一〇二五

夏期出張所　信州輕井澤

一、銀器類
一、貴金屬寶石細工品一切

外國人交際用贈答用品充實完備
内地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良
○價格低廉
○信用安全
○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點は品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通一丁目拾貳番地

辨天商會

第十五回

大正九年七月二十二日（木）夕より
同　　　　　　三十日（金）朝まで
横濱市山手町フェリス女學校に於て

女子青年會
夏期修養會

申込所　日本基督教女子青年會本部
東京牛込區田町三丁目十二番地
電話番町四五六三番

申込期日　七月十日迄

費用　會費金壹圓（一日貳拾錢 四日以上壹圓）
滯在費金八圓（一日壹圓）

女子青年界

第十七巻

第七號

エホバわが磐
わが贖ひぬしよ
わがくちの言葉
我がこゝろの思念(おもひ)
汝のまへに
悦ばるゝことを
得しめ給へ。

詩篇十九篇十四節

第十五回夏期修養會來る

本會の誇の一つである修養會は目前に迫りました。私共は之が我國唯一の青年女子心靈的修養の會合であるが爲めに、又出席者の多數なるが故に誇るものではありません。私共の誇とする所は來會せらるゝ若き姉妹方の眞劍さと眞面目さとにあるのであります。

之は又本會年中行事の一つであります。委員は今年の修養會を、とかく年中行事の陷り易い惰性と習慣とから脱せしめて、生氣充溢せるものといたし度い希望から、種々協議を重ね、別紙の如きプログラムを組立てました。然し之は唯お膳だてに過ぎません。私共の希望は諸姉が御自身此食卓につかれ、此處に備へられたものを味ひ、之を消化し、進んで善き果實を結ばれん事にあるのであります。

御承知の通り此會合は若き姉妹方の智識涵養を目的といたして居りません。之は亦社交習得の機會を御與へする爲でもないのであります。もとより毎日の聖書研究及び講演を通じて基督教に關し、社會問題に關する幾分の智識を得らるゝ事がありませう、又一週日を數百名の姉妹方が一つ屋根の下に起き臥しせらるゝ事により、所謂社交ではなくして、深いしんみりした眞の交りが結ばれ、中には終生の心の友を見出さるゝ方も少くないと思ひます。

然し本會の第一眼目は「汝の若き日に汝の造主をおぼへよ」の聖句の實現であります。それ故徹頭徹尾「神第一」「基督中心」の集合でなければならぬ事は申す迄もありません。即ち若き姉妹方をして眞に神を信じ、基督の救に入り更に進んで基督者としての生活に終始せしめんが爲め、互に考へ、共に祈り、且つ教へらるゝ會合なのであります。

故に、智識を渇仰して此修養會を期待せられし方々は、プログラムを見られしだけで、その餘りに月並なるが爲め、來會を躊躇せられるかもしれません。又(先に號の誌上に御紹介ありし如く)社交氣分で來會を心組まれし方々は、其餘りにかたくるしきが爲、中止を思ひ立たるゝ向もあらうかと思ひます。けれど私共は飽く迄も一義を第一として終始いたし度き希望でありますから、御來會の諸姉も、どうか此點をはつきり御了解になつて戴き度く存じます。

新渡戸博士は或時斯ういふ意味の事を云はれました。「私の生涯中最も樂しい、そしていつも私の信仰を振起させる記憶は、札幌の學生時代、まだキリスト教に對して迫害の激しかつた頃、友人と共に朝早く雪を踏んで丘に上り、神を讃美し、心を合せて祈つた事である」と。

諸姉は御心の中になほ多くの記憶を貯ふべき空所をお有ちになつて居らるゝ事と信じます。皆樣は其倉庫に如何なる記憶を貯へやうとして居られますか。罪の生活の記憶は、幸福な境遇にある人にも斷えず苦惱を與へると申します。之に反して苦き盃の中にも歡喜を味はしめ、勇氣と力とを、其一事を思ひ出す毎に、振起せしむる程に生命力ある記憶のある事をも疑ひません。殊に祈禱の經驗、救の體驗程、尊い力強い記憶を私共の腦裡に刻みつけるものはないでありませう。

私共は諸姉が今夏の修養會により、眞に生ける力に觸れ、靈的覺醒を經驗せられん事を切に祈るものであります。

願はくば諸姉も充分なる祈禱の準備と、大なる期待と信仰とを以て御來會あらん事を。

大正九月七月一日

修養會委員

就任の辭に代へ

總幹事　ヂエーン・スカット

「女子青年界」を通し、御挨拶に代へて一言申し上げます。此たび御國に參り女子青年會の爲め働く樣になりました事は、非常な歡喜と感謝でございます。幸ひ昨年數ケ月を日本に送り、其際青年會に働かるゝ日本及外國の幹事達に面會の機會を得ましたので、此國に於ける女子青年會の働きに就ては概括的の智識を得、且働く人達の一方ならぬ努力をも充分認めて居たのであります。それ故米國本部の中央委員會により、御國に於て働く機會を與へられました時、大なる歡喜を以て承諾いたした次第であります。

出立前米國に於ける女子青年會大會に出席致しました。之れは東西南北から凡三千人程の婦人達が來會せられ、共に青年會の來るべき働きに就て熱心に協議いたしました。出席者の中には本部市部學生部の委員役員を初め、學生あり工業商業に從事せる婦人あり、年若き婦人達等も多くありました。

同大會中決議されました事の中、人の注目に價する一事は、女子青年會工業部が米國基督敎會同盟の社會部の計畫を採用したことであります。斯くして青年會は敎會てふ大團體と相提携して、現今最も紛糾せる工業界の諸問題の解決に貢獻する所あらんとして居ります。

此大會を一貫して響いて居りました主調は「基督敎の完全」といふ考へでありました。而して女子青年會を通じて神の聖旨をなさんとの切望も來會者一同の心中に深く刻みつけられたのであります。

斯くの如く質に於て又量に於て大なる婦人の團體に加はり、殊に前途なす所多かるべき日本女子青年會の爲め、奉仕の機會を得し事を衷心より喜ぶものであります。（大正九年六月二十日）

アバ父と呼ぶ心

青山日本基督教會牧師　川添萬壽得

「單純なもの許りが永遠のものだ」メレジュコフスキーか誰かの言に、慥か斯んなことが云つてあつたと憶えてゐます。

我邦曹洞宗の開祖道元禪師は、宋に入つて其宗の秘奥を究めた人でありますが、歸朝の後、得道の極意を語つて「自分は人間の目は横に、鼻は縱についてゐるものだといふ事を認得した」といふやうなことを云はれたさうです。慥に單純なものは永遠なものです。否實は單純なもの許りが永遠なものです。

基督は「父よ、永遠の生命は、唯一の眞の神に在す汝と汝の遣し給ひしイエス・キリストを知るにあり」と仰有いました。何たる單純なお言葉でせう。然も亦何たる力あるお言葉でせう。サバチエが其「宗敎哲學」の中に「基督は、神や宇宙に就て理論を構成せられなかつたと同じやうに、人と其の道徳性とに就ても理論を構成せられなかつた。彼は自身を人間意識の中心に置いて、生命の本源に堀り入つたのである」と云つてあるのは本當の事だと思ひます。

基督が深く堀り入り給ふた其生命の本源は、何所にありませうか。私は、それは人間が神との父子的關係を意識するところにあると思ひます。人が神に對つて「父よ」と呼ぶ其心の底から生命の眞淸水が湧き出るのではありますまいか。

親が子を愛し、子が親を愛する事は極めて自然な事で、何の不思議もありません。若し親が子を愛せず、子が親を愛しなかつたら、それこそ不思議な事で、又これほど不自然な事はありますまい。私の考では宗敎の事もこれと異りはありません。神が人を

愛し、人が神を愛するのが宗教です。而して其譯は、神が父であり、人が子であるからに外なりません。これは本當に單純な事です。然し、此單純な事に永遠の生命があるから有難いと思ひます。

私は嘗て、かの大逆事件で處刑せられた松尾某が獄中から友人に書き送つたといふ手紙を讀んで、涙にむせんだ事があります。其手紙といふのは斯うです。『總領の奚司郎は習字が上手なさうで、或日學校の先生から甲を貰つて家に歸り、母にほめられ、思はず「お父さんに見せたいナア」と申せし由。之を見た僕の胸は裂けました。見よ、人間は、こゝに行くと弱い、皆子供だ。僕は思はず「オヽ神よ」と叫びました。アヽ「お父さんに見せたい」と思ふ心が、子供にも神を求め、如來を賴む心にて候はずや。私は未神を見し事なけれ共、その求むる心をたどり行くのみにてさへ、早何となく心をどり、喜ばしき感を覺え申候』人の將に死んとする其の云ふことや善し。慥にこれが人の本心です。僞なき親子の關係を意識した時、誰か「オヽ神よ」と叫ばないものがありませうか。

「お父さんに見せたいナア」と思ふ心、これが宗教の心だと思ひます。香樹院と申すお坊さんは「南無阿彌陀佛とは、お母さんといふことぢや」と教へられたといふことですが、基督は、もつと明に、人が天に在す唯一の神と父子の關係を意識するところに眞の宗教があると教へられます。使徒パウロは自らその宗教的經驗を述べて「すべて神の御靈に導かるゝ者は、これ神の子なり――之によりて我らはアバ父と呼ぶなり。御靈みづから我らの靈と共に我らが神の子たる事を證す」と云つて居ります。

基督が放蕩息子の譬で教へられた通り、人は「我に返る時」だれでも「わが父」を思ひます。何んな罪深いものであつても、人の最後に歸つて行く所は「我父の許」より外にありません。だから私共はやつぱり「父」の子であります。決して猿の子孫ではありません。況して物質の子では尚更ありません。私

共は何んなに墮落してゐましても、やはり神の子供なんです。而して神樣も決して私共の父ではないと仰有いません。反つて神は「その獨子を賜ふほどに」私共を愛して下されます。それは一見本當の事とも思はれない程に勿體ないことでありますが、實際基督はその父の御心を私共に啓示して下さいました。基督は父の御姿その儘です。「我を見しものは父を見しなり」と仰有つた御言には何の矯飾も何の誇張もありません。而してその御言の本當であることは私共が基督に來つてその救を經驗した時のやうに、神を「わが父」と感ずる事がないといふ事實によつて知られます。

神を父と呼ぶは、子が親を呼ぶと同じく、極めて自然の事、當り前の事、單純な事、隨つて平凡な事であります。然し此平凡な事ほど眞實な事はありません。又これほど私共の心に滿足を與へることはありません。基督の宗教は結局私共に神樣を「父よ」と呼ぶことが出來るやうにして下さることだと思ひます。私共は律法の前では赦さるべからざる罪人でありますけれども、父なる神の前では赦された子供であります。基督は私共を律法の奴隸から解放してアバ父と呼ぶ子たる自由に移らして下さいました。「父と我とは一つなり」といふはたゞ基督のみ經驗なされた貴い神子意識でありませう。假令私共はそれほどに成り得ずとも、自ら罪深き人の子であり乍ら、尚神を父と呼ばせて戴く事の出來るだけで充分であります。此事を思ふ時、私は基督が本當に有り難い救主だといふ感が、一層に強くなつて參ります。而して、

「罪の檻にすむしもべをも　神の家の子とおほしたて
いつくしみ給ふエス君の　御心は今も變りなし」

といふ讚美歌を歌ふ時、私の眼はしば〳〵感謝の淚にうるほうてゐます。

聖書研究

ピリピ書講解（三）

佐波亘

□この度の講解は十二節より二十節までの間です。即ち聖書本文に

「兄弟よ、我はわが身にありし事の反つて福音の進歩の助となりしを汝らが知らん事を欲するなり(十二)即我が縲絏のキリストの爲なることは、近衛の全營にも、他の凡ての人にも顯れ(十三)かつ兄弟のうちの多くの者は、わが縲絏によりて主を信ずる心を厚くし、懼るゝ事なく、ますます勇みて神の言を語るに至れり(十四)或者は嫉妬と紛爭とによりて、キリストを宣傳へ、あるものは善き心によりて之を宣傳ふ(十四)これは福音を辯明するために我が立てられたる事を知り、愛によりてキリストを宣べ(十六)かれは我が縲絏に患難を加へんと思ひ、誠意によらず、徒黨によりて之を宣ぶ(十七)。さらば如何ん、外貌にもあれ、眞にもあれ、孰も宣ぶる所はキリストなれば、我これを喜ぶ、また之を喜ばん(十八)そは此のことの汝らの祈とイエス・キリストの御靈の賜物とによりて我が救となるべきを知ればなり(十九)これは我が何事をも恥ぢずして、今も常のごとく聊かも臆することなく、生くるにも死ぬるにも我が身によりて、キリストの崇められ給はんことを切に願ひ、また望むところに適へるなり(二十)。

とある部分です。

□基督教は苦き酒杯の中にも甘きものゝ潛むことを教へます。基督の御一生殊にその十字架はその事を語るものです。今こゝにパウロの記した所も亦それであります。彼は實に禍を轉じて幸と感じ、損をして得をした人であります。然しながらそれはたゞ單に痩我慢や附燒刃位では到底出來得るものではありません。それは此天地は神の統治たまふ所であつて、萬物は神の支配の下にあり、神は常にその民の上を心に懸けらるゝといふ事や、如何に戰慄すべき害惡と雖も、決して神の支配の外にあるものではないといふやうなことを信じなくては、どうしてもそ

のやうな經驗は得られません。神天に在すといふ事を前提として、それから人事百般の事件を解釋すると、吾人は暗中にも光明を發見し、苦難にも歡喜を經驗することが出來ます。

□それはとにかくピリピ敎會の人々は、エパフロデトに託してパウロの安否を問ねたものと見えます。そこで彼は「兄弟よ、我はわが身にありし事の反つて福音の進歩の助となりしを汝らが知らんことを欲するなり」（十二）と言つたのでせう。即ち彼は諸君が御心配下さる一身上の迫害の苦難が、現在は實に福音を傳播するために却て益となつて居ると告げて、彼らに寧喜んで貰ひたいと言つたものでせう。ラゲ譯の聖書には「兄弟等よ、我汝等の知らん事を欲す、我身に關する事柄は、却て福音の裨益と成るに至りしことを」とあり。モフアット譯には "That my affairs have really tended to advance the gospel" とあります。

□パウロの生活はすべて主の御名のため、言ひ換れば神の榮のためでありました。それ故若しも御名の榮のあらはれんためであるならば、彼は彼の一身上の榮辱なんど物の數かはと觀じたのでありました。吾人が自己中心の生活を送らうとすると、屢々人生に於る苦難に壓倒せられ易いものです。そこで苦難に打勝つて歡喜溢るゝばかりの生活をするには、どうしても神を中心とした生活の外何物もありません

□神の攝理は不思議なものです。人意のみを以ては到底理解が出來ません。雨降つて地固まる世の習ひ迫害が屢々宣傳になることがあります。自己にとつては迫害と見えても、それがさらに大なる目的のためには、大なる歡喜と感ぜらるゝ場合がありはしませんか。若しもすべてが自己の執行順序通りになつたとして、果してそこに歡喜があるでありませうか測り知られぬ神の攝理こそは顧みて感謝に溢るゝ大歡喜ではありますまいか。此場合のパウロの縲絏の恥、彼の身體を縛る Chain それは神が福音宣傳のためにせられたる、いとも不思議なる攝理でありまし

た。
□パウロは自ら「キリスト・イエスの囚人」(エペソ書三ノ一)と言つて居ます。即ち彼では「我が縲絏はキリストの爲なること」(十三)の自覺がありましたから、彼は寧それを光榮として居たのです。そして彼の心事はやがて彼を看守して居た軍人を動かし、それからそれと――或は「近衛の全營にも」(十三)――その他多數の者に認めらるゝに至つたのでせう。

□或は本書四ノ二二に「殊にカイザルの家のもの…………」とあるところから、當時宮庭にも回心者があつたのを見ると、パウロは必ず宮庭に出入したであらうと想像する者もあります。或はネロ帝の后であつたポッペアがユダヤ人であつたことや、或は僕婢奴隷中には基督者も居たであらうと想像する者もあります。或はまた必しも彼が近衛の陣營に收容せられないでも、隨時そこに出入する機會があつて彼は宛然近衛の隊附牧師のやうであつたであらうかと想像する者もあります。とにかく彼の大膽なる傳道が遂には「近衛の全營にも」(十三)及んだのであつて此一事はパウロに取つてどんなに愉快なことであつたでせうか。名にし負ふ羅馬軍隊の花と唄はれた近衛兵への傳道、それは想像するだに愉快の極ではありますまいか。

□說敎は――傳道も勿論のこと――死を覺悟して居る者が、死を覺悟して居る者にする場合に、最も大なる效果を奏します。言ひ換れば、說く者も聞く者も一生懸命になる時に、そこに著しい反響を見る事が出來ます。そして此場合はどうでしたらうか。說く者は鎖に繋がれて居り、聞く者は明日の生命を保證し得ぬ軍人ではありませんか。基督敎は遊覽船に乘つて風光明媚なる邊を航行するやうな生活をして居る人々には、蓋馬の耳に念佛位でありませう。

□序ながらパウロは「宗敎と軍人」といつたやうな關係を實驗したので、彼の文中屢々そのやうな方面から道を說いた點がありますから一寸注意して置きませう。(例へばエペソ書六ノ十一—二十)

□凡そ迫害が激烈しくなると、常には大言壯語した者が、忽ち畏縮して其聲を潜むるものですけれども然しそれが却つて發憤となつて、常にはその態度が頗る曖昧な者でも、隨分義に勇むに至る場合があります。「かつ羅馬敎會の兄弟のうちの多くの者は、わが縲絏によりて主を信ずる心を厚くし、懼るゝ事なく、ます／＼勇みて神の言を語るに至れり」(十四)とあるのはそれです。抑も人の心といふものは、自分自身が知つて居るよりも偉大なるもので、平凡な人と雖も隨分偉大なる事をする場合があります。否、常には他人に蔑視されて居るやうな人でもです。吾人が靈界の消息を窺ふと、そこには枯骨靈動すといつたやうな事實が右にも左にも澤山あります。然しながらそれがためには、まづ誰か一人の心が、この場合のパウロのやうに燃えなくてはなりません。「エホバはあたらしき歌をわが口にいれ給へり。此はわれらの神にさゝぐる讃美なり。おほくの人はこれを見ておそれ、かつエホバによりたのまん。」(詩篇四〇ノ三)

□「嫉妬」(十五)とあります。嫉妬は人生に於ける大なる動力です。それから「分爭」とあります。これも人生に於る大なる事實です。思ふに當時羅馬の敎會では、パウロの大膽なる傳道と人心の彼に動くを見て、その敎會の所謂元老株の敎師輩は、己が地位に不安を抱きもしましたらう。それからまた敎會のユダヤ敎から改宗した基督者の中には、パウロが高調する一般の救に就て、己が選民たる誇を傷けられたらんやうに感じもしましたらう。とにかく彼等は「誠意によらず」(十七)に傳道したのです。然し乍ら「神は憐憫に富み給ふが故に」(エペソ書二ノ四)、彼等の傳道の動機の如何を問はず、これを祝福せられました。此場合その力は神からです。説敎者からではありません。また勿論説敎者の心を語るのではなく、それは神の音信を傳へるからです。

□動あれば反動あり。これは單に物理世界に於る現象のみではありません。この場合に於ても嫉妬と分爭のある所、そこにはまた「善き心」と「愛」(十五、十六)

とがありました。それは恰もパウロがルステラに於て經驗したと同じやうに（使徒行傳十四ノ二十）彼は敵地にありながら弟子達に圍まれたのでありました。斯う言ふ事實を考へると、人生は決して失望すべきではありません。

□「福音を辯明するために我が立てられたることを」（十六）とあります。これはパウロが現在受けつゝある苦難です。彼の鎖です。抑もパウロの苦難は何の爲の苦難であるかといふに、ラゲ譯には「福音を守護せん爲に我が置かれたる……」とあります。即ち彼の苦難は實に福音の擁護のための苦難に外ならないのであります。それはキリストの爲めに彼の十字架の苦難に與ることをいふのであります。基督教の神學に辯證學といふのがありますが、百の辯證論も一の體現に及びません。如何に善い說敎と雖一人の敎會員の「キリストの爲に」する事業に及びません。

□イエスが仰せらるゝには「刈る者は、價をうけて永遠の生命の實を集む。播く者と刈る者とともに喜ばん爲なり。俚諺に彼は播き、此は刈るといへるは斯に於て眞なり。我なんぢらを遣して勞せざりしものを刈らしむ。他の人々さきに勞し、汝等は其勞を收むるなり」（ヨハネ傳四ノ三六―三八）と。靈界に於てはすべての勞働者が皆一様に樂しむことを得るのであつて、その間に決して優劣はありません。それは恰も音樂の合唱のやうに、高音あり低音あり、すべてが一つを成すのであります。たゞ忘れてならない事はどこ迄もその「宣ぶる所はキリスト」（十八）であらねばなりません。若しその宣傳するところがキリストであるならば、たとひ其形式は如何やうにもあれ、パウロのやうに「我これを喜ぶ、また之を喜ばん」（十八）であります。傳道にもいろ／＼の方法があり、信仰生活にもいろ／＼ありませう。その傳道の歷史や、その人の性格やでそれはいろ／＼に分裂ませう。然しながら大切な點はその「宣ぶる所はキリスト」であるか否か。たゞこの一點であります。

□かくてその十九、二十兩節に至れば、パウロには

「汝ら（ピリピ教會）の祈」と「イエス・キリストの御靈の賜物」と「キリストの崇められ給はんこと」とを信じ且つ望んで居るので、身はたとへ牢獄にあるも或は生くるにも死ぬるにも、或はまたそれがために如何なる恥を蒙むるとも、それは毫も彼の意に介するところではなく、彼はその將來に對して心極めて平靜であると言つて居るのであります。

パウロはキリストの崇めらるゝ日が、眞に自己の救はるゝ日であると考へたものでせう。

「キリストの崇められ給はん」ためには、彼は實に何物をも惜まないのでありました。身も靈も彼の生活のすべては、これ「キリストの爲」でありました。

これはパウロが經驗した信仰生活に於る苦痛の意義であります。

信仰生活の中心は依然として我等の靈魂の中にあらねばならぬ。完全に聖き神の前に自己の靈魂の狀態を吟味し靈魂の密室に於て深刻なる懺悔の涙を流し痛烈な悔恨の結果、神より與へらるゝ平安によりて眞の喜悦を覺え、此喜悦が感謝となり、遂に行爲となり活動となつてこそ始めて力ある生活となるのである。活ける世界に於る現實的力を涸渇せしめない爲に奥深い内面的經驗を重んずるのである。アウグスチヌスは他の諸方面に於て極めて深刻な又徹底した考へを抱いてゐた。彼の生涯に深みを與へて居るのは實は其博大な思想でもなく、又その深邃な哲學でもない。全く彼の罪惡感とその結果より得た所の盡せぬ歡喜と感謝と讚美とである。

實際彼は自己を小にする事によつて神を大にし神を大にする事によつて玆に眞の意味に於て自己を大なるものとした。深刻なる罪惡觀によりて自己の弱小を自覺し、自己の弱小の自覺によりて神の恩寵の宏大を知りそれよりして盡ざる生命の泉を汲んだのである。

——中山昌樹氏講演の一節——

義務

面紗をかけた人が
岸邊に立つてゐるのを私は見た。
太洋の波は彼女の足を浸し、
凜としたその姿は、あはれにもゆかしかつた。
彼女の衣は夜のやうに黑かつたけれど、
彼女の面紗はしろがねの白さであつた。
そのなよやかな布のうへに
讀まれた神祕な文字は、
「義務」といふ言葉、
たゞそれだけであつた。
多勢の求婚者が彼女の傍を過ぎた、
遠くに近くに「美」をもとめつゝ、
彼らの心には消えやらぬ情火が
炎々と燃え立つてゐた。
やがて一人が來て、近づいて、
心をこめたはつきりした調子で語つた、
遂に彼の求婚は成功して、
彼女はその神祕な面紗をあげた。
彼は、愛くるしい顔、
力に充ち、優美に滿ちた顔を見た。
「ゆかしい人よ、あなたの名をいつて下さい、
其を私が讃へる事が出來る樣に」と彼が云つた。
「私を、なつかしい方、「義務」と稱んで下さい」
「否、否、あなたの名は「美」です、
このたのしい地上に、
あなたよりも美しい人はまだ生れたことがない」
「それも私の名ではありますけれど、
地上では囁くだけに留めなければなりません。
天使たちは私を「美」と稱びますけれど、
地上では「義務」といふほかに私の名は
ありません。」

アクツン作
ＭＭ譯

聖ダミアノの尼院

（聖フランシスと聖クララの一）

小出正吾

淋しき修道士

自由清新な希臘文明は燦爛たる光輝を西の空に残して沈んで行きました。然し、やがて燎爛花の如き文藝復興の黎明を迎へる前に西歐は暗夜の様な中世の夢を辿らなければならなかつたのであります。陰鬱な沈んだ、暗闇な、怪しいまでに深秘な夜の氣息——其が人類の經驗した中世の暗黑時代であります。

さればノバリスは「夜の讃歌」を歌ひました。

「......聖なる不可思議なる神秘なる夜の方へと我は行く。世界は底ひなき洞窟に沈みしが如く遙かの彼方にあり。そのわたり物皆は荒び果て、胸の小琴の弦に深き愁ぞ吹き通やう——爾も吾等をば愛するか暗き夜よ——妙へなる香油に爾の手より罌粟の束よりぞ滴たる......」

罌粟の果の汁の一滴は人を睡らせます。怪異とも甘美とも言ひ難き罌粟の花の魔の力の様な滴りが暗黑の中世に滴たり落ちて其處に修道院が生れたのであります。これらの濃艶な魂達は人間苦の極みより强烈な叫びを上げて神の國を慕ひました。永遠の國に達しやうとして我欲を抑へ煩惱を斷ち切り、世を離れて唯只管に孤獨の勤行を努めたのであります。

先づパウル(二二八—三四二)が埃及の沙漠に退いて遁世の生活を始めたのに次いでアントニー(二五〇—三五六)はナイルの岸邊に獨居修練を行ひました。彼は

「絶間なく祈れ」と言つては靜な祈の響きをナイルの流に投げ「働かうと思はぬ者は如何なる人も食べてはならぬ」と呼きつゝ畠へ行きました。世の移るに從つて思ひを同ふする修道士はあちらこちに集つて修道院を形づくるに至りました。中には聖シメオンやダニエルの様に、高い柱の上に獨座した儘風雨に露らされて性肉の刺戟を滅却し、難行苦行をした人達もありましたが此等は例外と言ふべきもので、多くは集團をなして擴まつて行きました。中にも有力であつたのがベネディクトでありました。「あらゆる豊けき谷間にあらゆる淸き深き流れの畔にはベネディクトの修道院が生じた」と傳へられて居ます。

ベネディクトは組織的修道院の父でありました。けれども其ですらやがては宗敎的腐敗の搖籃となつたのであります。十三世紀初頭の伊太利を憶ふものは、戰亂や掠奪や饑饉や疫病に荒らされた不安な都々の姿を思ひ出すでありませう。斯る時に山の上に保塞の如く堅く建てられた華麗なベネディクト派の僧院は靜かに四邊を繞る平原を瞰下ろして居たのであります。この亂脈の世にあつて此の處ばかりは「不可侵」と云ふ楯に護られて完全に平安でありました。そこで安穩を求める人々、臆病な隱遁者は競つてこの隱家へ入つたのでありました。それでありますから修道士の大部分は、最早や創始者の如き靈感の爆發はなくして、全く卑しむべき利己の動機から出でゝ安全な城壁の背後へ遁走して來た人達に過ぎません。見よ。下級僧侶の無智と不道德と主敎等の僧職賣買修道士等の粗暴と貪婪！かゝる汚濁を以て修道院の内部は塗られたのであります。まして只管に神を慕ふ修道士にあつても、彼等の心は寒い風の吹き通やうのを感じました。人間の世界には、彼等は既に死んだやうなものであります。各々の僧房は一つの荒野であつた」とサバティエは記して居ります。其の僧房の閾に立つて彼等は叫ぶ。

おゝ恵まれし孤獨よ
おゝただ一つの祝福よ

何と言ふ淋しい叫びでせう。

愛の大道藝人

この暗黒の中世に揺曳する淋しい「恵まれし孤獨」が、果して「唯一の祝福」であらうか？「否」と叫んで跳り上つたのがアシシの聖フランシスであります。

フランシスにとつては全ては耶蘇の中にありました。耶蘇の荒野に行かれたのは孤獨の瞑想生活を享樂しやうとてゞはなく、祈禱と天父との靈交による靈感によつて惱める人々の巷へ十字架を負ひて行かんとする準備であります。タボルの峯の啓示によつて榮光に輝いた主は、使徒が其處に庵を設けんと云ふのを拒けて受難の都へ下つて行かれたのでありました。其處で此世に光は來り、回心と永世は人々を潤ほすのであるとフランシスは實感したのであります。主の通りに生活しやうと彼は思ひました。彼の心は掌に「聖痕」を印するに至る程に、主の十字架を思ひ盡したのであります。

「愛の大道藝人」と或人は彼を謂ひました。彼は自分の愛する雲雀の樣に自由と愛に恍惚として、村から村へ家から家へ福音を歌つて歩いたのです。癩病人も、盗賊も、惱める者も、失はれし者も皆彼の友でありました。彼の衣服は褐衣一枚に繩帶でありましたが彼の心は丸裸でありました。彼は最も自然に基督と交り其の靈感に跳り上つて、民衆のなかに泪そゝいだのであります。やがて西歐は文藝復興の絢爛たる朝を迎へましたが、其の曙の薔薇光はアシシの「貧しき僕」の心の中に躍つたのを見るのであります。怪異なる僧院の魔術の樣な御祈禱に曚らずして、愛に燃燒して巷に出でたフランシスの中にダンテもヂョットウも黎明の豫言を聞いたのであります。

聖ダミアノ尼院

さてポルチウンクラ(又は天使聖マリア會堂)のフ

フランシスを訪れて諸郷より集まつて來た青年達は、サンタマリア・デッ・アンヂェリの四邊を繞る平原の橄欖の茂みのあちこちに僧庵をしつらへて「小さき兄弟」「貧しき人々」としてフランシスの所謂「愛の食卓」を圍み勞働の敎團を作つたのでありました。

此の小さき兄弟の中へ、小さき妹として入つて來たのが聖クララであります。彼の友として處女が來ると云ふことは思ひがけない問題でありました。

昔アムブロースは妹のマーセリナを尼とし、又パユミウスは妹の爲に尼院を整理してやり、アントニーは妹を、アンモンは妻を尼として處女のために尼院は段々發達して來ました。フランシスの說敎と彼等の生活が女性の社會へ及ぼした影響は、クララを最初として多數の婦人を彼等の數に加へたのであります。始めフランシスはクララの入團を許すと、彼女をベネディクト派の尼院の一つへ托したのでありましたが、やがて神はこの處女等の爲めに聖ダミアノの寺院を與へて下さつたのであります。この寺院に於て女性のフランシス主義者はフランシス第二敎團を營み、クララはこゝにその尊い一生を送るのであります。

聖ダミアノ寺院と言へばフランシスにとつては誠に忘じ難い思出の搖籃であります。アッシジの郊外に在る無數の禮拜堂の一つでありましたが、其昔フランシスが豪奢遊蕩の生活から一轉して、獨り神を慕ひ始めた其時分に、オリーヴの茂みの下の迷迭香とラヴェンダー草の馨につゝまれた石だらけな山徑を歩いては祈りに行つたあの小丘の頂きに立つた貧しい草庵が其なのであります。

この廢れ果てた禮拜堂の堂内には、貧い石造の祭壇とその後壁にあるビサンチュウム式の十字架像の他には何もありませんでした。十二世紀の多くの十字架像が血の滴る苦惱の象像であつた中に、聖ダミアノのこの像ばかりは言ひ難き靜平と柔和の御顔を以て「我患む」にあらずして「我に來たれ」と物語つて居るのであります。フランシスはこの前に

祈り續け最後の靈的勝利を與へられて、遂にこの「十字架につけられし者」の爲めに全生活を獻げて了つたのであります。父に別れ癩病人の友となつた狂人フランシスは、アシジの街頭に立つて石を乞ひ其を運んでダミアノの寺院の再建の爲めに働きました。其は遂に千二百八年の春、彼の弱い手によつて修築を完ふされたことであります。

曾てフランシスの勞働によつて修築され、又彼の心靈を開いた十字架像の殘された思出多いこの貧しい寺院が今はクララの祈りの家となつたのであります。其閾を踏み越すときに彼女は未來の幻影に情感を顫はしつゝ甘美な而も嚴格な希望に滿たされたことでありませう。愛らしい妹アグネスも彼女と一緒でありました。（此十字架像は今は聖クララの聖房に保存されてある）

祭壇の飾綱（パラメンテ）

さて聖ダミアノの寺院に送つたクララの四十一年間は、まこと白百合の香の如く泪ぐましくあります。其は謙虚であります。其は貧しくあります。其は至誠であります。其は信仰と讃美と感謝であります。クララの傳記者が言ふのには「贖ひの鞭をもて彼女の肉體の玉の壺を碎き、其によつて敎會の家は彼女のたましひの薫りを以て滿たされた」のでありました。

祈りと勞働と貧しさと歡びの生活――ジョルゲンセンがフランシスカニズムの花と稱へた美しき生活が玆に咲き出たのでありました。あの修道院の白い壁が象徴してゐる樣な或る崇高なものに對する憧憬はクララの日常生活によつてもはや單なる憧憬にあらず實生活の模範として薫つたのであります。やがて彼女と共に生活しやうとして浮世の處女等は聖ダミアノに急ぐのでありました。家庭の事情が許さないものは、自分の家で出來るだけ聖ダミアノ寺院の生活を眞似やうとしました。高貴な婦人達は持參金を獻げて修道院の建立に努め、彼女等自身も其處

に過去の生活の贖ひをする爲めに入つて來ました。結婚者は結婚者で、夫は聖フランシスに妻は聖クララに倣らはうと言ふ工合でありました。

院主としてのクララは自が尊嚴などを顧みず全くフランシスの如くに勞働を悦んだことであります。姉妹の樂しい食卓に彼女は懷しいお給仕をしました。姉妹等の手に水を濯いだり、彼女等の用を足してやつたりしました。「これをお爲なさい」なんかと偉さうに命令をする代りに、クララは好んで自分で働くのでありました。

中でもクララの好きなことは病人の看護でした。フランシスの兄弟達が村々を巡禮しては可哀さうな病人に出會うと、一生懸命に運んで來ては聖ダミアノの尼院へ入れて行くのでありました。ですからダミアノは一時病院のやうであつたと申されます。クララは親切に其等の病人を看護しまして、而してどんな不潔な仕事でも心より悦んでして居るのでした。姉妹達（尼院の人々は皆心の姉妹だつたのです）が戸外を歩いて歸つて來る時、彼女等の足を洗つてやるのはクララでありました。夜中にクララは起き出でゝは姉妹達の一人でも寢冷をしたりすることのない樣にと、被衣を氣をつけてやつたりするのでした。

クララは時々病氣をしました。病氣をして居る時でも彼女は勞働を止めませんでした。寢床の上へ起き直つて、一つの褥を背に宛てゝ靜かに祭壇の飾絹を刺繡して居る彼女の姿を見るのであります。こんな風にして縫はれた飾絹は五十枚に餘つたのであります。其は Colparale と云ふ種類のものでありましたが、クララは縫ひ上がる毎に山の上や平原にあるいくつもの寺院へ贈つたのでありました。こう云ふ心を以て縫ひ出された絹の模樣が、あちらこちらの寺院に送られて、其處の祭壇をどんなに聖く飾つたことでありませう。

されど其よりも美しいのは彼女自身の一生に展げられた神の童女の生活の刺繡なのであります。其が人々の心々に送られる時、どんなに聖い悦びが彼等の胸を飾ることでありませう。

（餘り長くなつて申譯けありませんから此の次にはクララの昇天を書いて御終ひにして了ひます。）

加奈陀より歸りて

（勝利の秘訣は忍耐と精神）

ミス・マクドナルド

五年振りで故國に歸りまして、いろ〳〵の變化に氣づきましたが、中で一番喜ばしく感じましたのは禁酒の實行と婦人參政權獲得との二事でした。

加奈陀が（コベット一州を除いて）禁酒國になつた事は、現在の國家に福祉となるのは申す迄もありませんが、更に大なる利益は將來の國民たるべき少年少女等が飮酒の習慣風俗に親しむ機會の斷たれた事であります。

婦人が參政權を獲た事は、當然の事で少しも不思議ではありません。その結果はとにかく、婦人も人として當然男子と同等の權利を有つべきであつたのです。今迄は男子は云々とあつた法律案は人と改正されました。今後婦人にも人として大いに努力すべき責任と特權と機會とが與へられた譯であります。

之等二つの事を實現する爲には、眞に醒めた人々の忍耐深い戰ひが隨分長い間續けられて居たのです。

加奈陀は餘り人口が多くありませんが歐洲戰爭には大抵十五人に一人の割合で志願兵として出征いたしました。そして今之等の兵士達が歸つて來ましたが、職業を定める事に非常な困難を感じて居ります婦人は依然として戰時中從事して居た仕事を續けて居ります。

之等の歸國兵士は政府から充分な手當を得て居りますから物質上には困難を感じては居ないのですが前申たやうに彼等の生涯の仕事を見出す事が難かしいので、一般に不安な狀態を呈して居ります。

御承知の通り加奈陀は英米と同じく徵兵の制度はありません。皆志願兵です。それ故兵士としての特別な訓練はありません。唯人としての敎養を受けて居るだけです。世界中一番行屆いた訓練を受けて居たのは獨逸兵でせう、然し彼等の敗北した事を見ると勝利の秘訣は戰者の精神にある事がわかります。

夏休みのよみもの

○ 森田松榮

「女學校上級より專門學校程度の姉妹の夏休みに讀むべき書を」といふ註文が本誌から來ました。惰けて居られるだけはなまけて暮す自分の本性からと、二三ヶ月も病臥してゐるのとで、今までに讀んだ本も少なければ、註文されてからせつせと讀むわけにもいかず、ぐづ〳〵してゐる中に締切の日が來て了ひました。人から推薦された書でいゝのが澤山あるやうですけれど、讀まないで紹介するのは無責任と思ひますから、讀んだ少しの外は略して、またの機會を待つことゝします。

夏休みには、專門の參考書をウンと勉强したいといふ姉妹があるかと思へば、此時を利用して專門以外の書を讀みたいとか、別の語學をしたいとかいふ姉妹もあるし、遊び半分讀みたいといふ向もあります。要求は雜多ですが、平生學校で求められない、獲られない方面で、何か獲たいといふ希望はほゞ共通してゐるやうです。尤も學校や境遇によつて、要求の違ふのは勿論ですけれど。

女子靑年會の修養會には、いつも書店があつて、興文協會出版の書を初め、多種多樣の良書が紹介されますが、今年も同樣と存じます。

「夏休みの讀みもの」を推薦する前、私は若い姉妹方に、圖書館（のある地ならば）の利用を第一におすゝめします。などゝいふと惰けものゝ自分が「讀みもの推薦」の註文に對し責任を逃れるやうな結果に自然なるかもしれませんけれど、決してさうずるい動機からいふのではありません。あとで私が推薦する書物もまづ、圖書館でおよみになつて、（慥に机上

におく丈の價値ある書と私は思ひますけれど）共鳴なり、感激なり、興味なりを獲られたら、同一著者の他の著述を續いてお讀になることを切望します。

近來婦人の著ですぐれたのを多くきいてゐますけれども、讀んでゐないので、御紹介出來ないのは誠に面目なく思ひます。それから、唯物論の上に立つて、信仰の大膽な否定をしてゐる人々の書も左の中にはありますけれど、すべての眞理の源は一なるを信ずる私は、諸姉が、其等の書中の數言の爲に、其書があらはしてゐる大きな深い眞理を見逃しはなさるまいと信じます。

唯心論者の書も唯物論者の書も、又種類も混合で勸工場式のやうですが、私は自分が左の書を讀んでうけた感銘と經驗とから、左のどれに就ても「より善い〇〇をつくる爲に讀むべき書」といふ事が出來ます。〇〇は「自分」でも「人間」でも、「社會」でも「世界」でも解釋は御隨意のこと。附錄も面白い書物です。

1 聖書　2 祈の生活　3 基督の事實
4 我等何を爲すべきか。 之はトルストイので「人道主義」とも題されてゐます。
5 聖範
6 トルストイ民話集　7 リヸングストン
8 婦人の勝利　9 現代生活と婦人
10 女の立場より　11 涙の二等分
12 どん底でうたふ　13 平民詩人
14 獄中記　15 マルクス經濟學入門 アメリカの某女史著の小本、經濟學の丸つきり分らない私にも面白くのみこめた本ですから、おすゝめします。
16 命がけ（マリ・スレッサ傳）

附錄

1 望の曙 復活を主題とせる歷史小說。
2 野性の呼聲 あつい夏の日も忘れられる程面白い小說です。
3 穽より（ヨセフの一生）。
4 父「善いサマリア人」を思はせる「父」の興味多い傳記。
5 眞珠姬 結婚を主題とせる歷史小說。
6 青い花 青い花が象徵してゐる幸福を主題とせる宗教小說。

○

上代たの子

私は夏休みの間に女子學生の方々（專門學校程度の）が如何かして少くとも英米の雜誌に親しむ機會を作られん事を希望いたします。時事に關する知識は、とくに女學生に缺けて居ると思ひます。それが平素は多忙ですからつひ憶劫になつて、餘り多く讀まれぬやうに見えますから、休みの際に英字新聞、雜誌等を讀んで味ふ事を覺えたら、餘程將來によい影響を來すと思ひます。米國發行のものでは矢張Atlantic Monthly, Survey, Outlook などがよみ易いでせう。殊に之等は日本の本屋に普通來て居る樣です。

○

齋藤勇

一、聖書
二、シェクスピアの劇
三、ホウマーの詩

譯詩

左に掲げるものは十九世紀の英國の女詩人クリスティナ・ロセツテイの Devotional piece の中の一部です。彼女には餘り大作はない樣で、ソネットとか或はかういふ宗敎詩が、彼女の敬虔な信仰と優しい女らしい心情とをよく歌つて居ると思ひます。

表徵

村岸榮子譯

露と太陽と白雨とが育て行く薔薇の蕾の
完き花に綻ぶるを樂しみつゝ
私は長い事見守つて居た。
壽長かれと念じたその花は、
朝の祈の刻に微笑んだけれど、
夕の歌聲に震へて地に落ちた。

朝な夕なに私は一つの鳥の巣を見守つて居た。
それは快い綠陰色の巣で、
中なる三つの卵子は斑點だつた、
然るに五月に入つて雛に孵す時、
恐れてか將た、倦んでか、
二羽の親鳥が遠く飛び去つた。

私は憤怒の儘に、
我身を圍む空氣に迄、芳香泌めよとて、
寧ろに育て來つた小枝をへし折つた、
亦私は以前の囑望の如何に切なりしかも忘れて、
卵子を踏み潰した。
かくて私は今復讐を終へた。
然るに死んだ小枝も卵子も、
芝生の上から私にかう言つた。
「私達が過まてりとてあなたは苦情を仰有るか、
あなたの憤りは正當か、
さらばあなたの實りを空しく待ち給ふ御神も、
あなたに對して鞭をとり給ふべきか」と。

木賃宿の人々

賀川春子

神戸葺合新川の貧民窟四町内には十四軒の木賃宿があります。軒に暗い角行燈が掛けてあつて、それには正面に「御宿」横に家號を書いてあります。

宿屋と云つても旅から旅へ渡り行く一夜泊りの人ばかりでなく、二年三年と宿屋に居る者がありまして、木賃宿はいつも繁昌して居ます。建物は安宿に相應した粗末なもので棟割長屋と大差はないのです然し最近建て直されたものは、この限りではありません。表の閾を跨ぐと、大低の家は一坪程の土間に客の荷を置いてあつて、横が帳場です。新客は職業年齢及昨夜の宿所を答へて、張り紙の宿料を見ます別間三十錢、四十錢、一等二十錢、二等十五錢、三等十三錢とあるので、料金を支拂ひ、始めて草鞋をぬぎます。別間でない限りは、四疊半か六疊敷の入込に薄い蒲團を一枚渡されて案内されます。そして男女混同老幼雜居で各々一夜を過すのであります。

新客でなくとも宿料の取立は中々嚴重で、毎夜必ず支拂はされます。餘程信用されませんならば、十五日とか月末に纏めて拂ふことは許されないのであります。入込の客も、別間の人も木賃宿では各自に食事を持たなければならないので、近所にある「めしや」で朝食をとり、働に出る人もあれば、宿屋で自炊する者もあります。鍋釜や、庖丁、爼の如き勝手道具は、一切宿屋から貸與されたものを共用にします。

宿泊の客は大低一軒に百名内外で、平均一晩十七圓以上の屋根代が上ると云ふのは五月末日の調べであります。讃岐の金比羅へ參詣する人達や、四國遍

路もあれば、下駄の歯入稼業もあります。靴直に人力挽、按摩に仲仕、行者に飴屋、大工左官の手傳といふのが重なる職業であります。生國も各々違つてゐます。入込の薄暗い電燈の影に、袖振り合ふも他生の縁とて、身上語りに時を惜まぬのであります。

中學卒業當時は秀才と云はれ、天晴社會に打つて出やうとした青年が、酒が基で身を持ち崩し、墮落の果は木賃宿にドン底の生活を餘儀なくする境遇を語る大工もあれば、昔は私も力ぢやあ負けぬ駕籠舁だつたが、今ぢやあ商賣の荷さへ擔げなくなつたと老を歎ずる羅宇屋さんもあります。過去の追憶は千差萬別。殊に雨降りの木賃ホテルは賑やかなものであります。仕事に出られぬまゝに、昨日の米の殘りを粥にして濟ませ、或は終日汚い部屋に寢るものもあり又財布の底を拂つて博奕をする人もあります。飲んだ酒の上で血を流すほどの喧嘩も起ります。餘暇はあつても、精神修養など思ひも依らないことであります。

晴天であれば早くから草鞋に足をかためた人足や手傳の女達が五六人手拭を頸へ巻いたり、被つたり藁草履に筒袖着物で出て行きます。管煙すげ替の老人も土間の自分の荷を肩にして出掛ます。行者も異様な姿で、遍路は六角の金剛杖を手にして、それぞれ西と東に向ひます。昨今朝の五六時頃は安宿の入口は雜沓を極めてゐます。その後は大風の凪いだ後の様な時が午後の三時頃まで續きますが、暮方は又々大混雜を呈します。

早く歸つた托鉢僧は、胸から袋を下して、善男善女が一握の施米も積つて五六合となつてゐるのを桶に移して洗つてゐると、四國遍路の七十三歳のお婆さんが近所の湯から一風呂浴びて歸つて來ます。往來に座つて、憐つぽい聲で合力を願つて居る乞食も木賃宿に歸つて來れば、貰い溜めた金で小鯛の鹽燒などで晩酌を傾ける時もあります。

其日の賃銀を夫から渡され、晩の仕度に主婦はバケツを持つて米屋に走り、一升でも五合でも買つて

來て、例の共同自炊場で焚くのです。澤庵漬を提げた女の子、串に差した牛肉――といつても牛の肝臓や腸――を買つて行く勞働者は片手に燗瓶、竹の皮包の味噌に、二合瓶の醬油「めしや」から菜を買つて歸る人達が表筋にも、小路にも右往左往してゐます。

仲仕などの賃金は二圓五十錢から三圓位働けるのでありますが、仕事に骨が折れるので、三日目に一日位は休みます。雨が降れば仕事は出來ないので、酒でも飮む者であれば、獨身者でも中々貯蓄など出來ません。一家族が多人數であれば妻も共に働かねばならず、土方の手傳に地つきをしたり、屋根の瓦を持ち運びしたり、一日七八十錢の收入を得て、漸く糊口を凌ぐと云ふほどで、正月が來ても、盆が來ても、新しいもの一枚着ることは出來ぬとかこつ女の人もあります。

私共の無料診療所に時折治療を受けに來ます一婦人は、やはり宿屋住居をしてゐますが、屋根代が一晩三十五錢だと云ふのです。夫が不具者なので、一人前の收入がありません。重に妻の勞働に依つて生活しますが、子供も二人あるので、ともすれば宿料を拂ひ兼ねるのですが、それが停滯は追放の恐れがあるので、何はさておき、家賃をと心掛けて居ると云つてゐます。一ケ月十圓ならば小い一家を持てる筈ですが、疊を入れ小道具を調へることは、其日暮しの彼等には出來得ないので、不經濟ながら木賃宿生活を三年四年と繼續させてゐるのです。

健康であつてさへさうした樣な經濟狀態であるので、一朝病人が家族のうちに出來れば、其慘狀は押して計られます。然してこの生活狀態は十ケ族や百ケ族に止まらず、神戸新川の貧民窟では、木賃宿以外の三千戸、一萬人の人々も之と餘り變らない生活をして居るのであります。

（九年六月三日）

誌友のページ

投書を歡迎いたします。匿名で差支へありません。論文、感想、詩歌、書簡いづれでも結構です。原稿締切毎月十五日。

感想

中村艶

此の頃婚期にある一人の若い友から届いた手紙の一節に「女學校で習つた事は一日一日ど忘れて仕舞ひ、何を考へても徹底的に分らず、本を讀んで見てもよく意味が通ぜず、次第に時代と反對の方向に進んで居る樣で情けなくなります。婦人の友六月號の社説「この生命のつかひ方」も結局どうすればよろしいのでせうか」之れは取りも直さず現代日本の女學校卒業後、結婚する迄の時代にある數知れぬ若い人々の嘆息であると存じます。心身共に發育して生氣に溢れ希望に滿ち、知識欲と活動力とに壓せられて居る此等の人々を、女學校卒業と同時に全然方向を轉換させ、紛飾と遊戲とに日を過さしめる事は、餘りに時代錯誤であり、若い人の生に對する氣力を全然無視したものではないかと思はれます。

一生を通じて恐らく此間に介在する二三年位、利用の可能性を持つ貴重なる時は有るまいと思ひます殊に女學校とは、單に僅に基礎教育を授けるのみですから、一個の人間として、且は近く母たるべき準備として、此時代は當然知識の修得、感情の教育、信念の養成等に費さるべき月日と思ひます。

それを、教育は之にて足れりとする、新らしい思潮を汲まない親の考と、更らに之等の女子を無制限に收容すべき教育機關を有しない社會の缺陷とは相俟つて、此人々の貴い意氣を双葉の内に喰ひ止め、徒らに無能な貴族的富裕なる倦怠の中に抱擁し、計るべからざる國家的一大浪費を自ら釀して居るのだと思はれます。

一方若い女子は、結婚に對して暗中模索の體で、いつ誰から求めらるゝか、その瞬間迄、皆目見當のつかぬ婚禮を待つ心は、長閑な樂しい氣持といつて仕舞ふには、餘りに徒然な物足りないものではないかと思はれます。何とはなしに眞底から「この貴い生命の使ひ方」に就て考へ度くなる頃かと思ひます。

どうかして一日も早く青年女子の爲、自由に高等教育機關が開放さるゝ樣輿論を起し、當人も親もそれに向つて進む事を、當然の事と心得る時の來り、又日刊雜誌は競うて興味ある中に、之等の人々の知識及び趣味の向上を促す樣な、充實したものに努力さるゝならば、どんなに婦人の無形の進歩に貢獻さるゝ所のあることでせう。

然も、如何程知識を修得しても、感情の修練を積んでも、徹底的に此生命の使ひ道に就て根本的の解決を得る事は、容易であるまいと思はれます。

此宏大な宇宙を支配し給ふ唯一の神の力を知り、之を信じ、神より受けたる吾が生を、神の期待し給ふ一つの美しき織物と見做し、如何なる模樣を神は吾がために考案なし給ふかは、知るに由なけれど、其日其日に與へ給ふ働は、大なれ小なれ、其模樣を完成する一部分と信じて、怠らず、つぶやかず、置かれし境遇に在りて最善の努力を盡す事こそ、誠の平和と安心とを與へらるゝ道であり、又此信念は各自の生涯の羅針盤となるのではありませんでせうか。

O Father ! help us to resign
Our hearts, our strength,
our wills to Thee;
Then even the lowliest work
of Thine
Most noble, blest,
and sweet will be.
H. M. Kimball.

無終の犠牲

志保譯

夜も日も常に四圍が靜になる時
私は十字架の上より來る
悲痛の叫をきくのである。

初めて其叫を聞いた時に、
私は聲をたよりに方々を尋ね歩いた。
やがて小高い岡の上に
一人の男が十字架上に
苦しんで居るのを見出した。

驚きかつ狼狽した私は
「下ろし奉つらん」と云つて
血潮の滴る彼の足より
釘をぬかうとした。

然し彼はいとおごそかに
「友よ、我にかゝはるなかれ。
世界の民のこぞりて
我を此十字架よりをろさんとて
來るにあらざれば、我は下る事能はず。」

「さあれ、我は汝の苦難を見、
また聞くに忍びず。
此苦難より汝を救ふ道あらば救へ給へ。
げに君よ、我は何をなすべきか。」

「世界をゆきめぐり
會ふ人ごとにかくつげよ、
「一人の人、我等のために十字架にあり」と」

ヘンリーヴァンダイク

思ひ出

一讀者

柔い春の日がビロードの樣な芝生の土堤の上に、ソットのつた樣にさしてゐる或午後でした。私は堪へ難い心の動を輕くおさへて、懷しい／＼幼時の思出の糸をたどりながら、横濱の野毛の山をさまよつてゐました。

横濱は私の生れ故鄕なのです。幼い心にきざみ込まれた嬉しかつた事、面白かつたことの記憶が絕え間もなく私の頭の中に突入して來ました。十年振りの此町、もとより多くの變化はあつた筈ですけれど不動から下りて行く坂や、狹い裏通の軒並、古い井戶等、かうした昔の名殘が、矢の樣に銳く私の記憶を呼び醒しました。身動もならぬ程重い着物を着せられて、五つの弟と一緒にお參りさせられたあの七歲のお祝の日に、此の道をたどつたのだと思ふと、幾千萬の人の踏み古した土の上に、自分の小さな草履の跡がありはせぬか等思つて見たりしました。

魔境の樣に春の氣が私の身を取りまいて身も心も溶かして終ふ樣に感じました。

夢の中にある樣な私の感覺に、市民の生活の音が遠くかすかに音樂の樣に觸れてゐます。

神樣の御姿その者のゝ樣な此の惠まれた自然の中に、一人靜かに立つて、夢中で過したあの幼年時代から今まで、かうして幸福に育まれて來た自己の爲に、筆では言ひつくされぬ感謝の祈を默想の中に捧げました。

私の心は愛に充されました。私は横濱が好きです人間の支配の外にあるあの大自然の森林、はてしもない青海原の上、かう云ふものに比べたならば、横濱なんぞ本當に小刀細工の樣な所でせう。然し私は此横濱の町の中に、何物か共鳴するものを見出してゐます。そしてそれは本當に／＼私の心を培つてくれます。生きたい心持を與へてくれます。すべて過

去の事は皆美しいものになります。佐波先生が六月の誌上で仰せになりました樣に、私もこの過去の記憶をたどつて、心溢るゝ感謝を味つた一人でございます。神樣はかうして私共の若い心を育んで下さいます。こんな美しい世の中に生を許されてゐるそれだけが、無上の幸ではありませんか、神樣の爲に何かしなければならぬと云ふ心が、急に思出の糸に結びついて、ふと我にかへつた私は、いそ〳〵と海原の樣な屋根の町を見下しながら、天神坂を下りて居ました。

友に

水野清子

今朝は朝から何とはなしに祈り度い氣持に充されて過しました。一番辛く感じました事は、人に接して此沈默を破らなければならず、感激の涙を抑へなければならない事でした。けれど、とにかく、私の心底の聖い祈の流れは何物にも亂されず、靜かな一日を送る事が出來ました。「汝らしづまりて我の神たるを知れ」群衆の中に失つたものを、今日孤獨によつて恢復する事が出來ました。

世の中にふみ込んだり、人の中に雜つたりして、私の心は、終にいろ〳〵の計畫や樣々の空中樓閣を立てるやうになりました。けれど靜かに靜かに神の現在の前に跪いて祈つて居ります時、自己の築いた一切は當然打碎かれねばならぬ性質のものであつた事を痛切に感じます。そして私の中には唯此二句のみが殘されるのです。"All for God" 一切は神の爲 "All through God" 一切は神に依り、——服從と信仰の二事。

神の御旨で、地上に生を受けた私、之を御旨の儘に用ふる事が當然なのです。人生の目的、其價値、此所に初めて、はつきりしたやうな氣がいたします。

夏期修養會の印象と感想（二）

日記帳　　みゆき

□□□

M「ねえ總子さん、信者のコチ〳〵の寄り合ひではないでせうか、心配よ」

F「お婆さん連ならいざ知らず、若い娘達の集りですもの」

M「知らない者達が初めて顔を合せる時のあの氣分を又味はなければならないのねどんなかしら」

F「何だか多少の好奇心も起らないではないけれどでも何だか氣恥しいやうな」

矢つ張り月並の女達の會話が、青山の寄宿舍に今着いたばかりの此二人の間にも交はされた。そんな事をいひ乍らも、後から着いた同校の四人と合せて六人は、私達にと定められた向き合つた二部屋に、三人宛一緒になつて落ち付いた。他の部屋からも、着いたばかりらしい荷物の音と、それに交つてガヤガヤ話し合ふ聲、笑ひさゞめく聲やが、陰氣なこの建物の氣分を輕い明るいものにさせた。

□□□

知らない乍らも何所か親しみの感のある顔ばかりのやうに思はれる。隔のない氣分を起させる。その人達と之から斯うして三度々々、一週間同じ棟の中に暮すのかと嬉しかつた。食堂で其夜ズラリと並んだ方々の顔を、キョロ〳〵見廻した時には、もう前に心配して居た事等は、とうに頭から消えてゐた。「隔てない感」といふ一言が唯もうやたらに嬉しくてたまらなかつた。

「今日から一時にこんなに澤山のお友達が出來たのだ」と誇らしい嬉しさが込み上げて來る。鳥居坂の學校には此倍のお友達が待つてゝ下さるのだと思ふと早く行き度くて御飯も餘に喉を通らない。一つに

は遠慮や恥しさが手傳つてたかも知れないけれど。

□□□

青山六丁目から電車に乘つて、鳥居坂で下りた。「女子青年會夏期修養會々場」と貼り出した英和女學校は停留場からすぐだつたけれど、暑い最中を毎日、朝夕二回宛七日間通ふのかと考へた時、オヤオヤと一寸不平も出かけたが、思ひ直した時、またと得難い心身共にの修養會だ、好機會だと、此處の寄宿の人達より、私達青山からの生徒の方が、餘計に惠まれたものゝ樣な氣がして喜ばしかつた。

會場に入る。鳥居坂敎會と云はれてる此女學校の建物の一部が、此夏中の集合の場所とされてゐる。出席者が多くて椅子が不足したやうだつた。正面の壁には、今年の標語のコリンタ前書十二章の廿六節から廿七節迄が大きく書いて貼つてあつた。夏の夕五百人餘の各學校の代表者に交つて、私が此處に斯うして座そうとは思はなかつた。

今日は開會式なので三谷先生の開會の辭や、井深先生の歡迎の辭なんかで時がたつた。標語が氣になつて、先生方の御言葉の合間には、正面に眼が行くジッと考へ込み度くなる聖句だ。私達凡ては一つの幹から別れた枝である。小いものに過ぎないけれど私達のする一つ一つが世間の誰彼に影響を與へないでは置かないのだ。

時々隣人と宗敎上に就ての意見を交換する事がある。結局二人の間に造り上げる神は、計り知れない大きな神を、小い區域に入れ込んだ小い神で、それで一つぱし二人共神を讃美したものと思て終ふ。此句、此標語が私達の間で小いものに造り上げられない樣、常に無限で永遠だといふ理想を、心に置くやうにと、祈りたい氣持になつた。

□□□

「袖擢り合ふも多少の緣」古い句のみが浮み出る。明日の朝は折角親しくなつたお友達に別れて、家路に向はなければならない。一日丈けでも親の膝下を離れた處に居ると、あたりの人がなつかしいのに、

まして一週間も一所に學び、話し、遊び樂しんだ此友々と、別れねばならないとは。いろ〳〵の事が浮んで來て、床に入つたが寢つかれない。いろんな人の顏が見えて來る。

毎朝四十五分宛の聖書の組がなつかしまれる。中路先生のお顏がちら付く。まぼろしの樣に浮んで來る。せめてもう二三日だけでも先生と御一緒に居たい。會者定離！こんな言葉がなければよいのに、と思ひもする。河井先生、新歸朝者、それから各講演者の御姿が一人々々はつきりと見えるやうだ。

今晩！最後の夜に河井先生の熱誠こめての御講演が、また繰り返して考へ出される。そして其後で決心者の多く出た事なんかも思ひ合はされて感謝せずには居られない。この集會は、初めから終迄惠まれたものだつた。天氣に於ても、人數に於ても、また講演に於ても。私達は幸福だつたのだ。

あの遠足の日、あの日も面白かつた。玉川の河原の涼風は、そしてあの邊の景色は、夏が來る度になつかしい思ひ出となる事だらう。

□□□

有益だつた。たしかに有益な一週間だつた。然し樂しかつたとも云はふ。私はこんな利益された會を經驗したかしら？ 前にこんなに無邪氣に樂しい親しい、そして町々の會の浮ついたものであるに反して、神聖な氣分の伴つた集りを見ることがあるかしら？ 私は幸福だつた。否今此瞬間でも幸福だ、樂しい思ひ出を生涯のうちに一つでも多く造り得る人は幸福ではあるまいか。

若い、然し眞面目な信者ばかりの中での生活が、どんなに氣持のよいものであるか、思ひ出すだけでも輕い心を起させる。何んと云ひ表して良いかはわからないけれど、たゞやたらに嬉しくなる。

祝福された生活よと叫び度くなる。このやうな樂しい群と、またこの樣な集ひと、來ん年の夏もぜひ送りたいものと、もう來年のことが希望される。

（大正八年七月夏期修養會にての日記）

○

A子

昨年の修養會は麻布鳥居坂の上、廣大なおやしきが立並んだ間に何所までも神の御榮を語る樣な氣分のする東洋英和女學校に於て開かれたのでございます。暑い事も忘れて日本各地から集まられたお友達と朝に夕に共に語り又共に祈り共に考うるには、最もふさはしい所でありませう。

「我等同胞」このかたひ誓のもとに、短い一週間を手に手を取つて送りました。今でも其まゝの氣分になれます。あゝなんて樂しい集でしたでせう。私のこのみたされた氣分、この胸の中を繪にして表されたらば……………感謝の思ひは新緑のやうと云ひ度い氣分がして止みません。

朝は早天祈禱會を以て一日をはじめ、數々の集會夜に至りましては感謝を以て一日を閉ぢました。この單純な一日〳〵にあなたは何を得られましたか、と問はれますなら、私は感謝と喜びとを以て答へ度うございます。「私は得ました、大きいものを」。と。

私の生涯は或はこれで一變されたとも申せませうか、私は精神的にこれ程大きい波動を與へられた事はありません。私は私の神を見出しました。私は私の神を得ました。精神上の喜びは肉體上の喜びと比しましてどれ程價値のありますものかは、私も存じて居りました。併し其喜びを得た今、何でそれをあらはしたらよいでございませうか。私は唯多くのお友達に、まだかつてこの樣な喜びを、もたれない方々にどうしても、持たして上げたいといふ厚い强い願望に充されて居ります。

私の爲に此後どんなものが備へられて居りませうか、私は存じません。唯神樣のみが御存じです。けれども後を振りかへつて私が歩いて參りました短い年を省みます時、いつも恵につゝまれて居たと云ふ事を感じます。そしてその中でも大正八年七月を、私は選びませう。私は最も惠まれた時として、紀念の多き時として、之は慥に私の燈火のともされた初めでございませう。

女子青年會本部

五月十二日午後二時半より中央委員會開催。
出席者、委員井深、志立、今西、三谷、長谷川、星野、山田、永島、リード、フェルプス、ロンドン
幹事マクレン、ページ、スコット、淺井、堀。

一　開會、三谷氏聖書朗讀、フェルプス氏祈禱。

二　前會報告朗讀、堀、承認。

三　會計報告、同、同、

四　諸報告

イ　幹事委員報告　フェルプス氏。

(一)未だ判然せざれどフリードマン氏日本又は支那に渡來せんことを希望し居る由。

(二)レーガン氏來月來朝の筈。クリスマスまでは滯京語學研究の目的、其後大阪女子青年會にて同氏を所望するや否やを同青年會に問合はすこと。一同承認。

(三)リーセー氏來朝の事に決す。若し他に何誰も來朝せざる時は同氏を横濱女子青年會に赴任せしむること。

(四)留學生に關する規定に多少語句の變更をなす。

(五)カフマン氏に本部より追悼文を送ること丶す。

(六)ミス、レオナ、スコット事務幹事に任命さる。一同承認。

ロ　修養會報告　星野氏。

(一)會場をフェリス女學校、フェリス、共立の寄宿舍を使用する事を許さる。聖經女學校寄宿舍には聖書の組の受持敎師及講師などを宿泊せしむること丶す。

(二)プログラム紹介。(別紙參照)

ハ　財政委員報告　リード氏。

(一)貳圓の會費を倍額に願ふこと。

(二)多額の會費を納附し得る會員を募集する事
中央委員自自大正九年八月卅一日までに貳

拾圓づゝの寄附金を得るやう盡力することゝす。

二 雜誌報告 淺井氏。

發行部數二千二百にして前會報告と變りなし。

ホ 幹事報告。

(一)スコット報告。

年來の宿望を達し、來朝せしを嬉び、歡迎茶話會に對する謝意を述べ、後大阪のバジエント及京都訪問につき報告す。殊に京都女子青年會創立の急務なるを說き適當なる內外幹事を得て、すみやかに創立せんことを希望し又海老名夫人を委員の一人として得しことを感謝すと。

(二)マクレン報告。

イ、渡米者の爲に多くの衣服を作れり。

ロ、市內の學校・工場等を訪問し市の研究を爲す。

ハ、社交事業に關し米國本部と聯絡を保つに至れり。

ニ、ヴアンダリップ夫人來朝につき日本に於ける基督敎團體に關する概念を與ふ。

(三)ページ報告。

イ、關西に貳週間滯在海老名夫人に京都女子青年會を紹介す。

ロ、今年の修養會には婦人の爲し得る働に關する知識を與ふるやう準備せり。

ハ、東京女子青年會に多少の援助を與へ居れり。

ニ、中西、山本兩氏の乘船なく困却し居れり。

ホ、聖路可病院にては看護法研究の爲、米國に留學せしめ得る婦人數名募集す仍つて候補者を推薦せんことを申込む。

へ、ストラザス氏事務員を養成せんことを切願す。

五　新事項。

（一）星野氏不健康の故をもて修養會委員長辭職願提出、西野貞子氏を後任者に推薦す。一同承認。

（二）日曜學校協會にては今秋の大會の爲に、婦人案内者、及通辯者三百名を募集し其全責任を負はんことを願出づ。要求の人數を得る事困難なる上責任をもて若き子女を保護すること容易ならざるにより拒絶することに決す。

（三）淺野氏寄附會の利子を山本琴子渡米の旅費に用ゆることと一同承認。

（四）モリソン夫人急に歸國の事となりたれば英國本部に同氏を横濱女子青年會の爲に派遣するやう依頼せんことをペーヂ氏提出。一同承認。

（五）加奈陀よりミス、エヂー今秋來朝二ヶ月間、滯在の豫定につき、其間同氏の援助を願ひては如何との提出あり。一同承認。

（六）上代淑子氏中央委員辭職申出でられしにつき井深氏其旨を確めらるゝことゝす。一同承認。

六　閉會午後五時二十分。以上。

（堀）

東京女子靑年會（神田北神保町）

□會館が多方面の團體に使用された事を感謝して居ります。日本基督教中會委員會、同派全國宗教學校長會議の二種の會合が時を異にして開かれ、いづれも廿名の出席者にて夕飯を共にし充分の協議をせらる。上京されし市村校長を迎へたる名古屋金城女學校及豐藤敎頭を迎へたる福岡女學校各同窓會は樂しき會合を催されぬ。其他ロシア、避難民父子の聖樂會を開きぬ。渡米費を得んためにて悲調を含むロシヤの聖歌を合唱す。或小學校の生徒の非常なる同情の寄附金及入場料にて集めたる金子を送りたり。

六月十三日には東京女子音樂園の演奏會に會館廣間をあてたり。三百人餘の出席者にて盛大。

□詩人ヴァンダイク博士及新聞界の巨人ストリート氏夫妻を初め、内外人の訪問者數一ヶ月百四十八人、諸組生徒三千二百餘人及他團體集會人數八百人餘合計四千百五十五名一日平均百卅八人強の出入者あり

ます、會館の狹さを感じて居りますが、基督の精神を發起し天國を形づくり度祈りつゝ働いて居ります。

□六月八日ヴァイオリン獨奏會を開く。名高きアイカイム氏夫妻の妙技に接したいと非常に待たれし人もありましたが、短時日と他に諸種會合のありし爲當日を氣づかひました。幸ひ會員一同の熱心なる盡力により盛大なりしことを得感謝して居ります。

總收入、千〇十五圓二十五錢。
内譯、切符代九百四十四圓也、寄附七十一圓二十五錢。
總支出、三百二十七圓三十三錢。
内譯、演奏者謝禮二百圓、會館借料印刷　税雜費等百二十七圓三十三錢。

純益金六百八十七圓九十二錢也。　（加藤高子）

學生部報告

○學生親睦會　五月廿九日午後二時より開催、堀氏談話の後二名の西洋人指導の下にフォークダンスをなし、五時散會す。來會者五十餘名。

○遠來の學生親睦會　六月十九日午後二時より小石川幹事住宅にて開く。來會者約四十名、英米支韓臺日人共に談笑し、遊戲をなし茶話の後ミスダニング談、蓄音器等ありて五時散會。

○講演會　六月廿日午後二時半よりミススカット講話、秋元氏の組の合唱、堀氏の夏期修養會の報告ありたり。スカット氏の演題は「學生民本主義」來會者八十名。

（岡崎小文）

家庭部報告

□料理の組、現在生徒數四十三名、クラスは三つに別れ、季節々々の材料を使ひお手輕でおいしい衞生に適する物を主として教授する樣勉め、五月にはイチゴのショートケーク等いたしました。お料理の組はこの月末で切り上げるので殘る時間少しを夏期中御家庭で役立つものを一つでも澤山御教へし度いと氣をもみながら御教へして居ります。十月にはまた此組をはじめますから何卒只今の樣に多くの生徒を

與へられる機會つて居ります。

□五月二十九日神田區内小學校の先生方の集會が當館内で開かれ、一時半より三時半迄米國の食糧問題に就て私が話をなし、午後六時より會費一圓で七十一人の先生方と米國人の方九人とを招いて晩餐を差上げました。食事中も食べ方等についての御質問食後はゲーム等して遊び實に面白うございました。斯る社交的の會を通して我が會の精神を社會の各方面に紹介いたし度いものです。

□五月十五日家庭親睦會を開き午後六時半三十一人のお客樣と晩餐を共にし食後はミスアレンの御思ひつきのゲームをして遊び、此外遠藤樣のピアノ獨彈フイッシャー氏の歌は當夜の集りに一しほの光彩をそへました。

□家庭會委員會にて毎月一回日本料理の實習會を開く事と、其度毎に精神的のお話を田島先生に御願ひする事とを決議し、其第一回は五月廿一日午後一時半より催され、初め二十分間田島先生より舊約聖書創世紀の中より御話あり、次に松宮信子夫人より夏向きの野菜料理三四種美しくておいしいものを敎へて頂く。第二回は六月十一日午後二時半より開かる例により田島先生より前會の續きの御話あり、三時より農科大學にて日本料理を化學的に御研究になり居る一ノ戸先生より約一時間(1)食物の主成分をすてし從來の日本料理の缺點、(2)食品の自然の味を基礎として用ふる事、(3)調味料と食品との調和、(4)だしのとり方等につきいと有益なる講演あり一ノ戸先生は歡んで私共の質問を迎へられ、次には實習をして下さる事故一人にても多くの姉妹方の御來會を願ふ

□今一つ家庭會の働きとしては從來の洋裁縫の組を五月限りやめ六月十六日より七月十五日まで洋裁縫一ケ月講習會を開く、講師は多年外人間にて御經驗深き桑田梅子氏より毎週月水金の三日間午前九時より十二時迄にてミシン使用法御存じなき方々の爲シンガーミシン會社より一人の敎師およこしになる故全くお初めての御方にても御差つかへなく只今十五

人の入會者ありさぞ美しい可愛らしいお召物が澤山出來る事と御目にかゝった事のない可愛らしいお子供様のお姿まで想像して居ります。（坂本花代）

大阪女子青年會　（北區天滿橋筋）

○本會第二回總會を五月十二日に開きました。出席者四十餘名。過去一年間の事業報告、委員の選擧、大阪回生病院長菊地博士の有益なる御講話及び有志の音樂後茶菓を共にし、其間に中路ちか子姉よりパジエントに就てのお話を伺ひ、一同此爲大に盡さんとの希望を以て五時過ぎたのしく散會しました。

○教育部幹事山口秋子姉には御結婚の故を以て御辭職せられ、創立以來本會のため熱心に御盡力下さいました山本幹事は御研學のため御渡米なさいましたよき後任者の與へらるゝやう祈つて居ります。

○豫定通りパジエントは六月五日當市公會堂で午後二時と七時との二回催されました。來會者二千餘名純益二千五百圓を得ましたばかりでなく、餘り廣く知られて居らない本會の精神及び事業を社會に紹介し、又多くの好き種子の蒔かれ、入會希望者の續出する事や、皆様方のパジエントの感想を伺ひますといよ／＼神の御恩寵の深きを感謝せずには居られません。此度の成功はお互の祈の結果とは存じますがわざ／＼東京から御手傳に御出下さいましたミスダニングの御厚意及び皆々様方の御盡力と、誌上を以て御禮申上ます。唯殘念な事はミススカットの御病氣にて御出席下さいません事でした。

○六月十二日午後一時より八時迄、星野夫人の御好意により住吉なる同夫人のお宅で、出演された姉妹方のため慰勞園遊會が開かれました。同夫人御手製のおしるし、おすし等の御馳走に一同時の過ぎるのを知らず、終りにヒムオフザライトを歌ひ、過ぎし樂しきパジエントを思ひ起し感謝を以てお別したのは九時過でした。出席者百七十餘名。（土屋氏報）

神戸女子青年會　（下山手通三丁目六五）

本會は長い間望み祈り又女子青年界讀者諸姉にも御祈の御援助を願つた會館を、四月中旬に思つたより早く與へられました。以來、會館は種々の用に立ち、殆一日も遊んで居た日はございません。毎日何か會があるとか、組があるとか、パーティーがあるとか、實に目の廻る様に用はれて居ります。青々した庭の木々は來館者の目を喜ばせ、又幸に此建物を凉しくして呉れます故、多分夏の暑さも、これより大いに減ぜられる事と存じます。

去る六月三日より六日迄の四日間に渉り開かれました初夏修養會は、毎日午後二時と夕六時半との二回集會を催し、午後の分は主に家庭の婦人の爲、夜は職業婦人の爲とし、青年會とは御縁故の深い大阪の西野貞子先生に御講話を願ひました。出席者は第一日八十一名、第二日百三十名、第三日百二十名第四日は夜の集會なしにて五十名で、日一日と來會者の心も引しまり、恩寵に滿ち〳〵て先生の一言一句は人々の心を刺し通し、多くの靈が呼び醒されました。そして第四日目には記名された決心者が廿六名で、何か人の爲に奉仕し度いと希望する若き信者が十七名ありました。此様に多くの收穫があり多くの婦人方が神様の恵を受けらるゝ緒の開かれた事を一同感謝するの外はありません。

此修養會に引續き三つの聖書研究會を組織し、愈々深く研究せんとして居る姉妹方が多くあります。何卒讀者諸姉の御祈りを此爲に御願ひいたします。

修養會には代表者は出せません迄も、會員の多に出席して戴き度希望して居ります。（大香氏報）

横濱女子青年會　（本町通り）

○**英語談話會**　暫く休會なりしを去る六月三日午後七時半より開會せり。さきにミスベーカー支那の視察に赴かれ、時しも御歸濱の折とて支那朝鮮地方の風俗習慣さては女子青年會の有様など興味多きを承

はり數多の寫眞など拜見す。其他新しく當地男子青年會に主事として來られしドウギン氏の夫人のピアノ獨奏二回終りて、出席者三人宛相對し自由談話に移り最後に一同合唱をなし茶菓を共にして閉會す。

○送別會　永く當會のため御盡力下されしミスベーカーには此度御兩親おすぐれ遊ばさぬ由にて近々御歸鄕のため、六月四日午後六時半より送別會晩餐會を開く、會する者八十名餘讃美祈りを以て始め、成田氏の送別の辭、ミスベーカーの答辭にて第一部を終り、第二部晩餐會にうつる、食終りて室原まり子孃のピアノの獨奏ミスベーカーにちなみてのシュレード、ミスベリーの餘興などありて閉會。

○講演會　我が日本の爲、我等女子の爲め大いに責任を有するの日、社會學の參考にもと考へ六月十二日午後七時より講演會を開く。幸にも當市役所慈救課の緒方氏日頃の御研究になりし社會改造と婦人勞働問題につきていとこまやかに御講演下され、一同大いに益し、感謝せり。布澤姉のピアノ獨奏あり茶菓を共にして閉會す。出席者凡九十名。

○グアム島より二婦人の來舍　グアム島は南洋諸島の一にて英領なり、此處より土人の女子漂流、我が日本船に助けられて來る。我等日本人の目に珍らしき姿の二婦人の本會の事務所にあらはれしは、六月十日の午後なりき。彼等は自分の人妻なる幸福を語り、我等獨身者に大なる同情を言葉に形にあらはして止まず、やがて彼等の主人尋ね來りしといふを見れば、こは白人にて未だ年若き二人の青年なり。翌朝日本新聞紙は傳へて之等二夫婦の事のよしを詳にす。以來朝に夕に、この物珍らしき土人と青年とは打連れだちての散歩に會館は人の山もてかこまれし事度々なりき。彼等の夢の生活は破れぬ。夫たる人々は、それ〴〵なし來りし業の審判を受くる事となりぬ。此二婦人の泣き悲しむ事一方ならざりしも親切なる人々の訪問、贈物になぐさめを得、最後に彼等二夫婦は一先づマニラに赴きて事の終結を決する事となり、八日間滯在の後十八日午後アメリカの水兵護衛のもとに自動車にて此處を去りぬ。來りし日の姿とかはり、スート、ハット靴すべて裸なりしを被はれ、一かどの夫人をきどりて出で行けり。

葉書便り

○「青年界」をありがたうございますいつもいゝ氣持で拜見して居ます。小出さんの「聖フランシスとクララ」たのしんで拜見してゐます。わざとむつかしい言葉なんか使つてえらそうに見える文章は頭痛ですけれど、小出さんのを拜見してゐるとほんとに美しい氣持になれます。あなたを通して御禮申上ます。フミコ

○我がものでありながら我が思ふ様に出來ぬ我心の不思議な働をたゞ驚きとおそれとをもて見守るのみでございます。全て與へられて我によからざるなしと云ふた聖者の言葉が貴に嬉しく響きます。つぎ込まれた信仰から脱してこゝに新たに求めねばならぬ時期であることを知りました。幼兒の如き謙遜と、熱烈なる要求と修道者の如き克己の生活とが私には必要となりました。しげ子

宮城女學校青年會より

心持のよい初夏となりました。本部の皆様には定めし御健かにて御活動の御事とかげながら感謝し尚一層の御發展を祈つて居ります。さて五月二十四日豫ての企通り音樂會を催しました。そして隨分の好結果を得る事が出來ました。そして感謝して居ります收入金額は三百圓餘で其中百五十圓を方々の寄附に廻しました。其中から。金五十圓は誠に僅ながらどうか本部の御仕事の幾分かに御使ひ下さいませ。次に六月四日午後二時より外村先生の御說教があり其時に當校の生徒初め市內各敎會の婦人會の方々が出席なさる筈でございます。そして其時澤山の姉妹方が信者の中に加へらるゝやうに、私共が主催となつて一週間十二時半から一時迄熱心に準備祈禱をいたしました。神様は如何に私共が小さいものでも熱心に一つ心になつて祈る時、必聞いて下さる事を信じます。末筆ながら皆様の御健康を祈ります。

米國渡邊百合子氏より

今は五月十五日(日曜日)午後、此靜かな事何とも云へません。やうやく初夏らしくなりました。日本は花ばかりでせう。皆様御丈夫ですか。今は多分修養會のお仕度でおいそがしい事と思ひます。修養會は日本の女學生の爲に大切な機會であるとつくづく思ひます。何卒大勢の方々が修養會で眞の生活の意味をよく會得なさるやう願つて居ります。何處で何日からあるのでせう? 種々想像して居ります。之から母校を訪問して夏期學校にも出席いたし、短日月にいろいろの經驗をいたし度く思つて居ります。

先日ニューヨーク青年會で日本の夫人方をお茶にお招きして、河井先生が日本の青年會の事をお話しなすつたので、そこに出席された方々が早速雜誌をとりたいと云はれました十人分の雜誌代拾弗封入いたします。

東京女子青年會社會事業部にては株式會社服德銀行十週年記念として
金貳拾圓也の御寄附を得たり。

寄附金

一金四萬八百弗也

右は在紐育同胞婦人の盡力により學金せられ故國女子青年會の事業費として御寄附ありしものなり。謹で感謝す。

(詳細の報告は八月號に掲載す)

再び本部會員に謹告

五月號の本誌に

普通會員の會費（一圓五十錢）は雜誌代値上げと共に其儘購讀料として申受くる事但該會費を特に事業費として用ひられん事を御希望の方は其趣御一報あらん事を。

といふ意味の會告を掲載いたしましたが、其後事務會計の都合上、右會告を撤排いたし、左の通りの決定をいたしました。何卒御諒承あらん事を願上ます。

普通會員の會費は從前の通り事業費として申受け、同會員には雜誌を送呈せぬ事。

注意

一、此規定は本部直屬の普通會員にのみ關するものにして、市靑年會及學生部青年會々員には關係なし。

二、雜誌購讀者として（會員にあらず）料金一圓五十錢を拂込まれし方々は此規定に關係なし。

（本號に限り一部特價二十錢）

消息

□久布白直勝氏　落實姉御良人なる同氏は六月三日永眠せらる。

□田中達氏（東京神學社講師）　六月三日永眠せらる。

□今泉ツヤ子氏　長らく御病氣の所五月二十二日永眠せらる。

□岩崎智子氏　五月二日御良人を失はれし由。

□田川大吉郎氏　六女瑞江孃を失はれたり。

□ミスパタソン　母君を失はれし由。

□ミスマクドナルド　六月十四日加奈陀より御歸りありたり。

□秋草光子氏稻垣春江氏（東京青年會々員）六月十三日市ケ谷教會にて金井牧師より受洗せらる。

□林田愼子氏（東京青年會々員）　中澁谷日本キリスト教會にて六月十三日受洗。

□柏井園氏　六月二十五日永眠せらる。葬儀は七月五日午後四時富士見町教會にて執行せらるゝ由。

□ミスベーカー、中西、山本の三氏は六月三十日出帆の春洋丸にて米國に向はる。

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度　前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共	內地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正九年六月廿八日印刷納本
大正九年七月一日發行

發行所　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　日本基督教女子青年會　電話番町四五六三番　振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　河井道子

印刷人　芝區三田和泉町七番地　前川吉次郎

印刷所　右同　三成舍

attended, enjoying her beautiful hillside home at Sumiyoshi and the delicious supper served by the hostess and other members of the Board.

At the present writing, our two secretarial vacancies are still waiting to be filled. Naito San, a graduate of Poole Jo Gakko, came as office helper for two months, a help much appriciated during Pageant preparation, and occasional volunteer help tides us over from time to time, but permanent, well-qualified help is urgently needed Yamamoto San, the General Secretary, is about to sail for San Francisco and will be during the summer with Miss Crawford at her home near San Dimas, Cal.

In addition to the regular classes, there has been a class of young married women in sewing recently, and a class of High School teachers is studying social problems. A new class in church history is starting this week.

KYOTO

The first club has been organized in Kyoto, its membership consisting of a group of girls who have been in English classes in the Association. Its purpose is to encourage the girls in the use of English and it is the plan of the club that only English shall be spoken in their meetings. On the 7th of June the pre-organization meeting was held. Out of twenty-one women invited eighteen were present at the meeting. It was a fine group of deeply interested women, ready to take hold of a big task. Mrs. Ebina was named as chairman of the committee, Mrs. Grafton, wife of the Y.M.C.A. secretary, vice-chairman, Mrs. Nakamura secretary and Mrs. Ozawa treasurer. Kyoto, though unorganized hitherto, has been quietly doing an important work in establishing relationships with the people of the city with the result that about two hundred girls are coming regularly to the rooms every week. The work has been very largely educational, though the social side has not been neglected and great emphasis has been placed upon the Bible classes.

KOBE

A series of evangelistic meetings was held over a week-end recently, led by Miss Nishino, a graduate of Dr. White's school in New York City. Further comment, touching on the results of the meetings, will follow in a later number.

The Kobe Association recently held a week-end Conference. Miss Nishino of Osaka was the chief speaker and made a deep impression in her presentation of deep spiritual truth and its relation to current problems of today. Twenty five young women announced their decision to become Christians and a good many older Christians received such help that they are entering on a new interest in Christian service. Individuals who could not attend the meetings have been led into new life through those who were able to be present and the influence of the conference is going on in the lives of the Association members.

On the 28th of May an interesting group of people gathered for foreign supper and games at the Building about fifty of the teachers of the Kanda-ku Primary Teachers, Association, both men and women. About t n foreigners sat down to supper with them. These people came for the purpose of learning foreign customs and showed a very real inter. t not only in foreign ettiquette and ways of entertaining but an interest in the work of the Association of which they were the guests. Practically all of the women carried away with them literature on the Association and it's purpose and work, while many of them expressed a desire to become members of the organization. To accommodate other members of the Association a similar party in the fall has been asked for. We feel that such affairs offer splendid opportunity for good publicity work and for winning the friendly co-operation of the leaders of young people in the city.

OSAKA Y. W. C. A.

Osaka reports with joy that the Association Pageant was given here, the third performance in Japan, on June 5, both afternoon and evening, in the city Auditorium. The experiences of Tokyo and Yokohama in giving it were to a large extent repeated. There were difficulties of course. but the prestige of its having been given in two other leading cities was of untold help here, and the benefit of their experience largely removed for us the difficulties met in pioneering such a work. It was a great help to have Miss Dunning come from Tokyo for the last week of preparation and to have Mrs. Hannaford on the Pageant day for help with the costuming and the music. Fully 230 girls took part in it—the majority of them from the existing membership and the nightschool girls, but including one factory group and a number of High School students entirely new to the Association. The chorus was some forty girls from Poole Jo Gakko. Four Japanese girls and Miss Boydell, the new violin teacher from Poole's, played the violin, and Mrs. Converse directed all the music which linked the Pageant into a harmonious whole. The afternoon audience numbered about 1,000 and the evening one perhaps 1,500. The evening audience was especially appreciative, breaking into frequent applause at the country scene, the appearance of the nurses, the games by the factory group, the dance of the Spirit of Play and her maidens, the charming children's scene, the "prophets" and the women of many nations, and many others. As no really complete rehearsal was possible and all the drilling had to be in isolated groups, the final success brought the greatest thankfulness to everyone concerned. Most of all are we thankful for the devoted work of Nakaji San, a member of the Board and a teacher in the Baptist Bible Training School, who took the part of the Association Spirit. She made her part a true "ministering of the gift," showing the beauty of Christian womanhood with a quiet power that will never be forgotten. Numbers of letters have reached her since the Pageant expressing the writers' appreciation, one boy saying that her words had brought him back to his Christian faith. Requests for various forms of Association work are coming in several of them for Bible study, and some girls are ready for Rainbow Club leadership and other new kinds of service. The Pageant has proved a great education, and the entire Board and membership and many people previously ignorant of the Association have a greatly enlarged idea of its work and mission. One lady formerly lukewarm on Association affairs attended the afternoon Pageant and was so impressed that she went again in the evening. A Board member declares that there will be no difficulty now about getting Association members, for people are so enthusiastic about the well-rounded view of it through the Pageant. The newspapers gave excellent publicity both before and after the Pageant, publishing pictures and giving us large space in their columns. A delightful aftermath was the entertainment given by a Board member Mrs. Hoshino at her home the following week for all who took part in the Pageant Fully 170

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KWAI)

Volume 17 July 1920 Number 7

NATIONAL

Word has been received from Miss Kawai on her way to England. She was travelling with Miss Harriet Taylor, Executive Secretary of the Foreign Department of the YWCA in the United States. and after a brief stay in England was planning to go to Switzerland to attend the Conferrence of Worlds' secretaries of the Association. Miss Kawai attended the recent National Convention of the Association in the United States at Cleveland and addressed a large meeting on the Sunday afternoon during the Conference.

Plans for the Summer Conference are being completed and include beside the regular Bible Classes, lecture hours, recreation etc., evening addresses on various forms of Christian work which women are doing and hours of conference on Association work. In the Association hour special groups wil meet to discuss the work of Board members, the activities of the genera membership and the Association in Mission Schools.

A welcome reception was held for Miss Jane Scott, the new foreign General Secretary, on Thursday, June 10th at the National Residence in Tokyo. A large number of Association friends, both Japanese and foreign came to welcome her to Japan.

Reports from New York announce that there is a prospect of at least six new foreign secretaries coming to work in Japan in the fall of this year. They are hoping to send even more than that number, but so far six have been definitely promised.

Japanese residents in New York recently raised 40,000 dollars for the Association in Japan. Of this a part is to go to the Osaka Association for a dormitory for girls and the rest has not yet been decided.

Mr. Julian Street, the author, who visited Japan recently with the Vanderlip party, attended a meeting at the Tokyo Association where different Christian organizations gave a resume of the kinds of work they were carrying on. Among the organizations represented were the Y.M. and Y.W.C.A.

TOKYO

The Tokyo Association was very fortunate this month in secure Mr. and Mrs. Henry Eichheim for a violin and piano concert. The concert, given on May 8th in the Y.M.C.A. auditorium, was well attended by a most appreciative audience and was a splendid success both from a musical and a financial stand point. Where ever Mr. and Mrs. Eichheim have played during their months in the Orient they have given a rare musical treat to those who heard them and the Tokyo Association was indeed fortunate in being able to give to the Tokyo music-loving public a last opportunity to hear them before their sailing for America.

A short course in the making of foreign summer clothing has been opened at the Kanda Building and it's popularity is demonstrated by the large number of women who gathered for the opening lesson. This class will run thru the month of June and until the 17th of July The class is held during the mornings, to better accommodate the house-wives who wish to attend.

女子青年界第拾七卷第七號（毎月一回一日發行）
大正九年六月廿六日印刷納本　大正九年七月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可